

第4学年 社会科学学習指導案

1 小単元名「小石原焼を作り続けるAさん」

2 小単元の考え方

こんな児童だから

<学ぶ意欲・態度>

本学年の児童は、福岡県内の伝統的な工業製品に対する関心は薄く、小石原焼に関する知識もほとんどもっていない。しかし、社会科の学習に対する意欲は高く、「福岡県の様子」についての学習では、福岡県内の特色ある地域について、あまり知らないというのが現状であったが、土地の様子や産業の特色に違いがあることに気づき、福岡県の様子について意欲的に取り組むことができた。

<問題を解決する力>

- ・ 「昔の道具と日々の暮らし」の学習では、「お釜で炊いたご飯がおいしいのはなぜか」という学習問題を設定した。その中で、羽釜の仕組みと炊き方の工夫に目をつけ、全員が自分なりの予想を立て、マップによって課題を明確にし何を調べたらよいか課題をもつことができた。
- ・ 1学期の学習においては、文書資料にアンダーラインを引き、必要な情報を書き出すことは十分ではないができるようになってきている。また、写真・グラフ・表等の資料の読み取りについては十分とは言えず、今後とも指導を要する。
- ・ 自然条件と産業の関係について、3年生の時には「あまおうづくりにはげむ〇〇さん」の学習で、人々は土地条件や気候等の自然条件を生かして様々な工夫や努力をしていることを学習しており、自然条件と産業とのつながりについては、十分とは言えないが考えることができるようになってきている。
- ・ 表現する力の面では、話し合いの中で自分の考えを発表することは徐々にではあるができるようになってきている。また、表現物についてもラベル図やマップ等の表現物にまとめることができようになってきている。

<生きて働く知識（見方・考え方）>

1学期の社会科学学習において児童は、「博多どんたく」「博多祇園山笠」「放生会」等を通して、古くから伝わる地域の年中行事の中に、地域の歴史を伝え、保存に取り組んでいる人の努力や、生活の向上と安定に対する地域の人々の願いがあることについて気付いている。

「昔の道具と日々の暮らし」の学習では、羽釜の仕組みと炊き方の工夫、その中にある人々の思いや願いについて調べ、「道具」と「炊き方」の関係や「炊き方」と「思いや願い」の関係について十分認識しているものの、「道具」と「思いや願い」との関係認識は十分とは言えない。

こんな教材で

本小単元では、指導要領の内容(6)ウ「産業や地形条件から見て県(都、道、府)内の特色ある地域の人々の生活」の指導において、伝統的な工業等の地場産業そのものの意味や役割を考えるようにするとともに、それらが今日まで根づいている地域の特色、守り継承している人々の努力、固有の風土等についてとらえることをねらいとしている。

そこで、小石原焼の陶工「A和孝」さんを取り上げる。福岡県の南東部標高500メートルの小盆地に位置している小石原地区では、320年以上前から地域の自然を生かして陶器作りが行われてきており、伝統的な工業として村の産業を支えている。

その中でAさんは、「孫子の代に小石原焼を残すためにもお客様にかわいがっていただける器を作りたい」との思いをもって、伝統的な技術を生かしながらも、新しい技術を取り入れ、人々に親しまれる小石原焼を作り続けている。

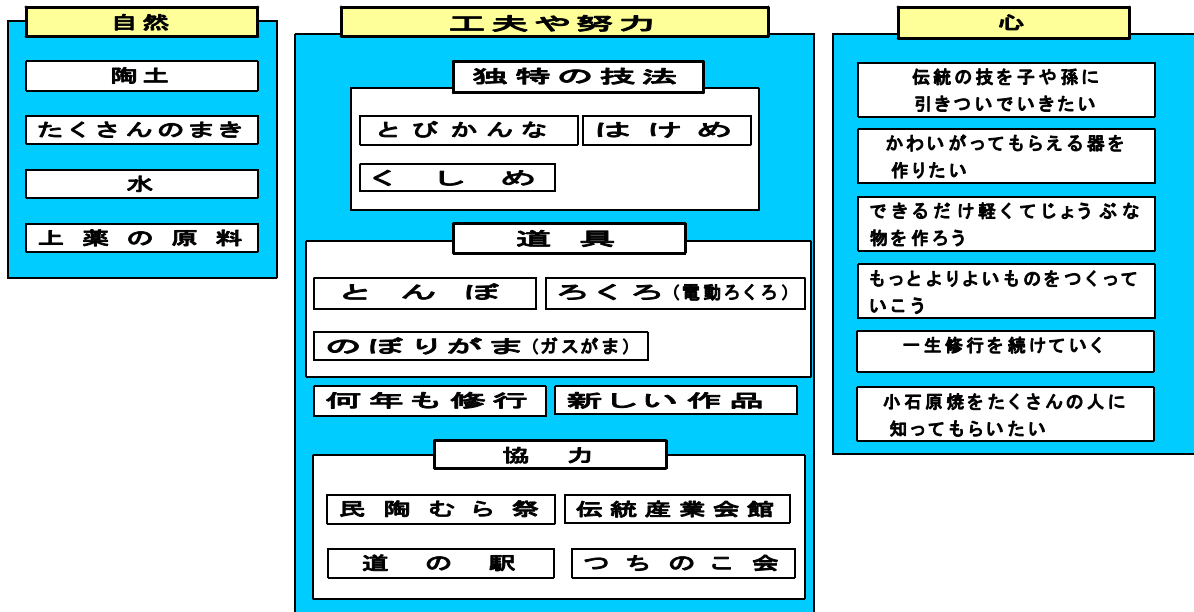
小石原焼の陶工、Aさんとの出会いを通して、小石原焼という伝統的な工業の意味や役割、自然条件を生かしながら伝統を守り継承している人々の努力や工夫、さらに、小石原焼の発展を願う人々の思いや願いを理解するとともに、自然(もの)、人々の努力や工夫(人)、思いや願い(心)の関係についてとらえることができると考えた。

こんな指導構想で

研究内容① 考えをつくり、高める表現物づくり こんなラベル図で

学習問題

Aさんたちが作っている小石原焼が320年も続いているのはなぜだろう

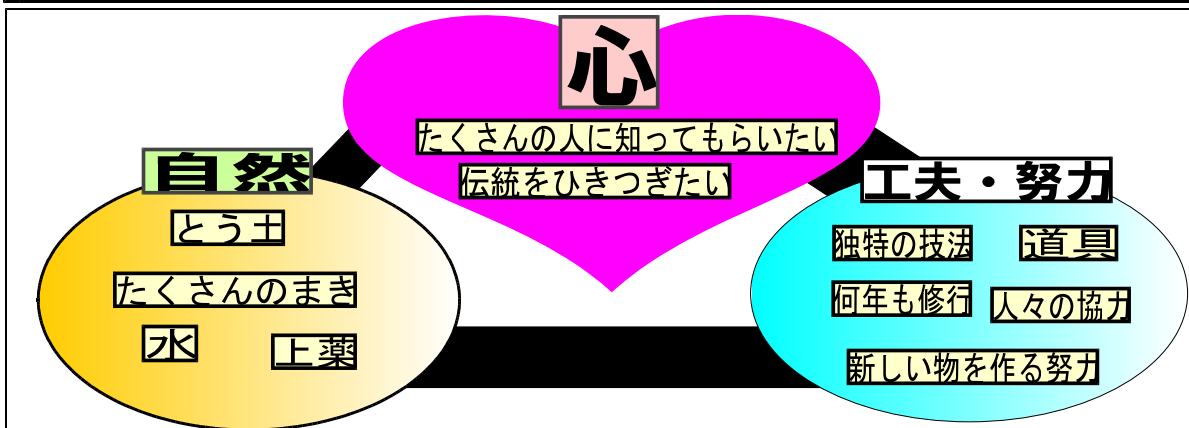


小石原焼が320年以上続いてきたのはなぜか、という学習問題を追究していく上で、小石原の自然と、Aさんたちの工夫や努力、Aさんたちの心という視点でラベル図として表現する。見学やインタビュー、副読本等を使用して調べたたくさんの事実を、以上のような視点でラベル図に表現することで、本単元で習得しなければならない基礎的な知識が分かりやすく整理され、事実認識を高めることができる。

こんなマップで

学習問題

Aさんたちが作っている小石原焼が、320年も続いているのはなぜだろう。



Aさんたちは土、水、木等の自然条件を生かしつつ、独特の技法を大切に受け継ぎながら、小石原焼の発展を願って様々な工夫や努力をしている。そして小石原の伝統を守り続けるためにこれまでたくさんの人々ががんばってきた。だから小石原焼は今も多くの人々に親しまれ320年も続いている。

「自然」「工夫・努力」「心」という3つの視点とそれぞれの視点に含まれるタイトルを使ってマップを作成する。このことにより、小石原焼が320年以上続いてきたわけについて、文章では表現しにくい社会的事象の関係や、全体像が表現しやすくなる。

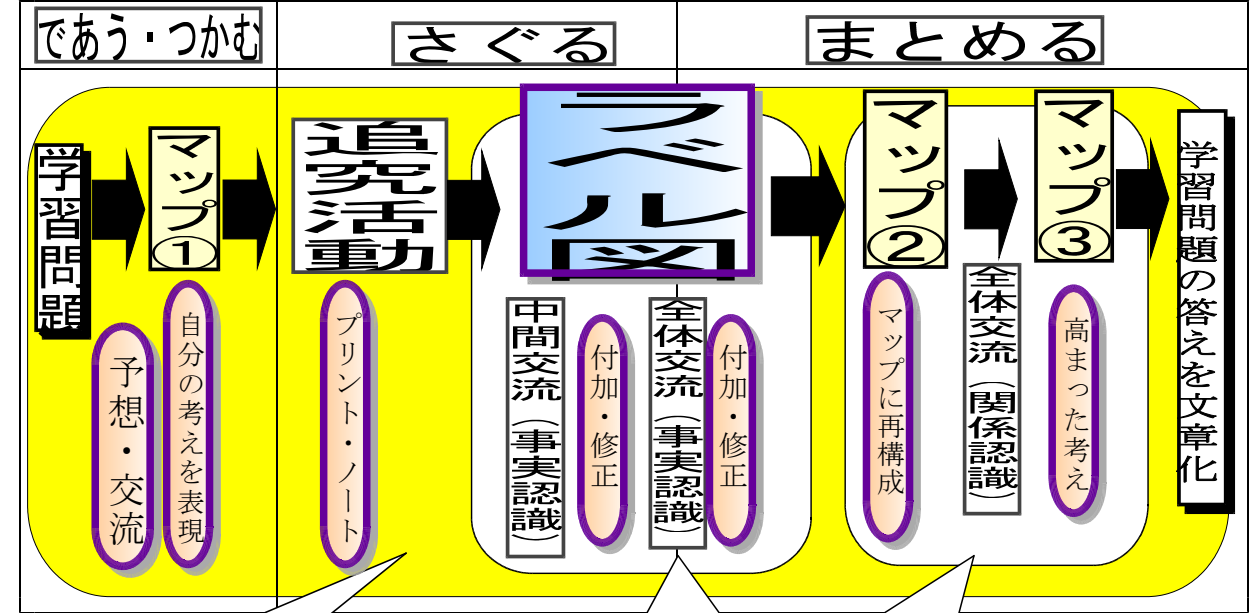
また、表現する過程において自分の考えを構築していくことができる。

さらに、交流の際には視覚的に考えをとらえることができるので、相手の考えをより確かに理解することができる。

研究内容② 表現物を活用した交流活動の工夫

本小単元では、「考える力」を中心とした基礎・基本の力を育成するために、表現物とそれを活用した交流活動を下図のように位置付ける。

学習問題「Aさんたちが作っている小石原焼が、320年も続いているのはなぜだろう。」に対する予想（はじめの考え）をマップ①に表した後、明確にされた視点をもとに追究する。調べてきた事実をもとにラベル図に整理しながらラベル図による中間交流・全体交流を通して事実認識を行わせる。その後、付加・修正されたラベル図をもとに、自分の考えをマップ②に表現させ、マップを活用した全体交流を行う。交流後、考えの変容をマップ②に付加・修正しマップ③として表現する。これらを通して関係認識を深め、考える力を育成することができる。と考える。



交流の組織化

ラベル図をもとに、カルテを作成し、それぞれの児童の事実の認識状況を把握する。そして、基礎的な知識として必要な最小限のラベルを獲得させるために、事実認識が不十分な児童を中心に、資料の読み取りを丹念に行わせながら個に応じた指導を行う。

また、小グループでの交流活動の際に、それぞれのグループの事実認識の状況に応じて、学習問題の答えと「小石原の自然」「Bさんたちの工夫や努力」「Bさんたちの心」それぞれの視点、ラベルのつながりを問う発問を行う。

場の構成

ラベルの内容が不十分である児童が友達のラベルと自分のラベルを比べながらラベル図の付加・修正ができよう小グループによる構成を行う。

交流の組織化

児童が自分のラベル図と比較しやすいように、「自然」「工夫・努力」「心」の3つの視点それぞれの事実が、ラベルとして整理されている児童のラベル図を黒板に再現する。

その際ラベルをカード化し操作できるようにする。

交流においては学習問題の答えとラベルがどのようにつながっているのか、その根拠は何か、資料をもとに検討させる。そして、ラベルに書かれたキーワードの意味を理解させる。

場の構成

児童が交流活動で活用できるように、小石原3つの視点ごとに写真やグラフ、文書資料などを掲示する。

また、本小単元で身につけさせたい基礎的な知識を全員に共有させるために、全体交流を行う。

交流の組織化

それぞれの児童の考えを把握するために「自然」「工夫・努力」「心」の3つの視点のつながりについて、どのように考えているのか、マップをもとに、カルテを作成し交流活動で活用する。

また、それぞれの児童がマップの付加・修正ができよう、代表児のマップを黒板に再現し視覚的にとらえられるようにするとともに、操作可能なものにしておく。

交流においては関係認識を深めるために、視点どうしのつながりの根拠となる事実は確かなものであるのかを問う。

場の構成

自分の考えをマップ②に表現し全体交流を行う。ここでは、小石原の自然と、Bさんたちの工夫や努力、Bさんたちの心のそれぞれの視点のつながりについて交流を行うので、それぞれの考えの違いに応じてグループ化しておく。

児童が調べてきた事を振り返ることができるように、「自然」「工夫や努力」「心」それぞれの視点ごとにまとめた資料を掲示するとともに、必要に応じて、モデルとなるラベル図も掲示しておく。



こんな目標と指導計画で

3 小単元の目標と指導計画 (全15時間)

<学ぶ意欲・態度>

福岡県の伝統産業である小石原焼に関心を持ち、小石原焼の伝統の技や工夫、努力について意欲的に調べて、友達と交流しようとする態度をもつことができる。

<問題を解決する力>

- ・ 生活経験や体験、既習学習等をもとに、学習問題「Aさんたちが作っている小石原焼が320年も続いているのはなぜだろう。」に対する考えを出し合い、自分の課題をもつことができる。 (課題を発見する力)
- ・ 自分なりの課題をもとに見学やAさんへのインタビュー等を通して、Aさん達が作っている小石原焼が今も続いている理由について調べることができる。 (調べる力)
- ・ **小石原焼が320年も続いている理由について、自然条件や人々の工夫や努力、思いや願いという点から考えることができる。** (考える力)
- ・ 小石原焼が320年も続いている理由について、調べたことをラベル図にまとめるとともにラベル図を使ってマップを作成し交流することができる。 (表現する力)

<生きて働く知識(見方・考え方)>

小石原焼が320年も続き福岡県を代表する伝統工芸品になったのは、代々の窯元の人々が、小石原の自然を生かしながら小石原焼の伝統を守りつつ、工夫や努力をしてきたからであることを理解することができる。

段階	配時	学習活動と内容	基礎・基本の力と支援
で あ う	1 + 図 工 5	1 福岡県の伝統的工芸品である小石原焼について知り、興味・関心をもつ。 (1) 小石原やAさんの様子をビデオで見たり、Aさんが作った小石原焼を直接観察したりして、小石原焼について話し合う。 ・小石原焼きの実物の観察 ・粘土で小石原焼き作り(図工)	○ ビデオによる小石原の様子を観察、小石原焼きの観察、粘土による小石原焼作りを通して福岡県の伝統的工芸品である小石原焼に興味をもたせる。 <p style="text-align: right;">学ぶ意欲・態度</p>
つ か む	2 ①	2 小石原焼が320年も続いている理由について学習問題をつくり、自分の考えをもつ。 (1) 小石原焼の資料をもとに学習問題を作る。 学習問題 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">Aさんたちが作っている小石原焼が320年も続いているのはなぜだろう。</div> (2) 学習問題の答えについて予想を話し合い、マップ①をかく。 ・小石原の自然 ・Aさんたちの工夫や努力 ・Aさんたちの心(思い、願い) (3) 学習計画を立てる。 ① ・副読本やよい子の社会科等の資料 ・インターネット、見学	○ 小石原焼が320年間続いていることを小石原焼の歴史年表を使って知らせ、学習問題を設定する。 <p style="text-align: right;">課題を発見する力〔資料読解〕</p> ○ 小石原焼が320年もの間、人々に親しまれ受け継がれてきたのはなぜか、その理由を考えるさせる。 <p style="text-align: right;">考える力〔比較・関連〕</p> ○ 学習問題の答えに対するそれぞれの考えの違いを話し合い、それぞれの追究課題を明らかにするとともに追究意欲を高める。 <p style="text-align: right;">課題を発見する力〔資料読解力〕 学ぶ意欲</p> ○ 自分の考えを明確にさせるために、マップ①をかかせる。 <p style="text-align: right;">表現する力〔かき表す〕</p> ○ 何をどのような方法で調べるか見通しをもたせるために学習計画を立てさせる。 ・追究の方法・見学、インタビュー内容の確認 <p style="text-align: right;">調べる力〔資料収集・選択力〕</p>
さ ぐ る	8 ⑤ ① ②	3 自分の課題にそって調べ、ラベル図にまとめる。 (1) 文書資料で調べたり、小石原を見学したり、Aさんにインタビューしたりして調べる。 (2) 調べたことを整理しラベル図をつくる。 (3) ラベル図をもとに中間交流を行い、	○ 資料から必要な情報を選択できるようにするために、文書資料の読み方について適宜指導する。 <p style="text-align: right;">調べる力〔資料収集・選択力〕</p> ○ 事実認識を図るために、視点ごとに調べた事実をラベル図として整理する。 <p style="text-align: right;">調べる力〔資料収集・選択力〕</p> ○ 中間交流では、基礎的な知識の獲得を図る

	<p>自分のラベル図を見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2～3人の小グループで交流する。 ・ ラベルの妥当性について話し合う。 ・ 自分のラベル図と友だちのラベル図を比較しながらラベルの付け加えや削除を行う。 	<p>ために、小グループで交流を行い、学習問題とタイトル・ラベルの整合性の検討、付加・修正を行う。</p> <p>調べる力〔資料読解力〕</p>
4	<p>4 ラベル図を使って全体交流し、ラベル図の再構成をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>小石原の自然</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 陶土・まきになる木・水・上薬の原料 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>Aさんたちの工夫・努力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人々に親しまれる物 ・ 独特の技法・道具・厳しい修行 ・ 人々の協力 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>心（思いや願い）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統を守り伝える思い ・ 小石原焼を知ってほしい願い </div> <p>(1) 中間交流で付加・修正したラベル図をもとに全体交流をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習問題の答えにつながる事実を全体で共有する。 <p>① (2) ラベル図をもとに、マップ②をかく。</p> <p>5 マップ②をもとに全体交流をする。</p> <p>(1) 代表児がつくったマップをもとに学習問題の答えについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小石原の自然とAさんたちの工夫や努力とのつながりについて ・ Aさんたちの工夫や努力とその奥にある心（思いや願い）とのつながりについて ・ 小石原の自然とAさんたちの心（思いや願い）のつながりについて <p>(2) 交流をもとにマップ②を修正する。 (マップ③)</p> <p>(3) 交流を通して高まった自分の考えを発表する。</p> <p>学習のまとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>Aさんたちは土、水、木等の自然条件を生かしつつ、独特の技法を大切に受け継ぎながら、小石原焼の発展を願ってさらに新しい作品を作っている。そして小石原の伝統を守り続けるためにこれまでたくさんの人々ががんばってきた。だから小石原焼は今も多くの人々に親しまれ320年も続いている。</p> </div> <p>① 6 自分の考えを、文章に表す。</p> <p>予想される児童の変容の例</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>小石原には伝統を守り続けるためにたくさんの人々ががんばっていることが分かりました。小石原焼は福岡県のじまんだと思います。</p> </div>	<p>○ 全体交流ではラベル図をより確かなものにするために、カルテを活用しながら視点ごとに、話し合いを進める。</p> <p>考える力〔比較・関連〕</p> <p>○ 意図的な指名により、児童の考えを交流の中で生かすために実態カルテを活用する。</p> <p>考える力〔比較・関連〕</p> <p>○ 的確に事実認識をさせるために、視点やタイトル・ラベルが一目で分かる板書を工夫する。</p> <p>考える力〔比較・関連〕</p> <p>○ 付加・修正の足跡が見えるようにするために、付加・修正したラベルには赤いマークを付けさせる。</p> <p>考える力〔比較・関連〕</p> <p>○ 学習問題の答えを出すために調べてきたことをもとに、課題に対する自分なりの答えをマップに表す。</p> <p>表現する力〔かき表す〕</p> <p>○ 自分の考えを高めるために、マップをもとに自分の考えと友だちの考えを比べたりつなげたりして話し合う。</p> <p>考える力〔比較・関連〕</p> <p>○ 関係認識を適切に行うために、自然・工夫や努力・心のつながりを中心に話し合う。</p> <p>考える力〔比較・関連〕</p> <p>○ より確かな考えを表現させるために、交流後にマップの修正を行わせる。</p> <p>考える力〔多様な視点・立場〕</p> <p>○ 相手に分かりやすく伝える力を育成するために、最終的な自分の考えを、マップを使って発表させる。</p> <p>表現する力〔説明力〕</p> <p>○ 表現する力を育成するために、マップをもとに、視点やタイトルを生かして自分の考えを文章に表す。</p> <p>表現する力〔かき表す〕</p>

4 本時 ラベル図を活用した全体交流 (11 / 15)

5 本時の目標

- 小石原焼が320年も続いているわけについて、自分と友達のラベル図を比べて話し合い、「小石原の豊かな自然」「人々の工夫や努力」「人々の心」の3つの視点から事実認識を深めることができる。
考える力(比較・関連)

6 本時指導の考え方

- 児童は、前時までに、学習問題「Aさんたちが作っている小石原焼が320年も続いているのは、なぜだろう」について、「豊かな自然があるから」「人々の工夫や努力があるから」「人の心(思いや願い)があるから」という視点で追究し、調べた事実(キーワード)で構成したラベル図を作成している。そして、同じ立場の児童同士でグループを作り、ラベル図をもとに交流することで、自分のラベルを見直し付加・修正したり、友達のラベル図に対して質問や意見を考えたりしている。
- そこで、本時指導にあたっては、自分のラベル図と友だちのラベル図を比べて交流し、小石原焼が320年も続いたわけについて事実認識を深めるために、特に、次のような手立てをとる。

(1) 考えを付加・修正し、高める交流の組織化

- 代表児の選定
「自然」、「工夫や努力」、「思いや願い」の3つの視点全ての事実認識ができるように、3つの視点で追究し、他の児童の付け加えや意見、質問が出されるようなラベル図をついている児童を選ぶ。
- 実態カルテの活用
個人の実態を把握しカルテを作成することで、教師が児童相互の考えのずれや共通点をつかむことができ、どこを交流の中心に据えるかが明らかになる。そこで、意図的な指名により児童一人一人の考えを交流の中で生かすことができれば、自分の考えを深めることができると考える。
- 児童の考えを揺さぶる発問
思考を途切れさせるのではなく、思考を深める発問を考えておく。児童の考えのずれを交流の中心とし、そのラベルは必要ないのか？ どちらのグループに入るのか？等、交流させることによって、児童は、友達の考えのよさに気付いたり自分の考えを見直したりできると考える。
- 単元の構成が一目で分かる板書づくり
ラベル図は、この単元を構成している基礎的な事実認識となる言葉をラベルとして視覚化したもので、交流する中でラベルを直接操作して、ラベル同士やタイトルとの関連や意味を考えることができるものである。児童の考えのずれや共通点から考えを深めていった過程が、授業の終わりにはっきりと見える板書にする。

(2) 考えを比べたり、つなげたりして交流できる場の構成

- 児童が交流で活用できる学習環境(事実認識から意味認識へと深めるための資料)
ラベル図の交流で大切なのは、児童がラベルに書いた事実(キーワード)を児童自身の体験や具体的な資料とつなげてどれだけ説明できるかということである。そこで、発言は、小石原焼、見学時の体験資料、写真、グラフ、文書資料等を指し示しながら行うようにする。

本時の主張点

本時では、小石原焼が320年も続いているわけについて、「自然」「工夫や努力」「心」の3つの視点それぞれがキーワードとどんなつながりがあるのか、を具体的資料をもとに説明し話し合いラベルの検討を行うことで、事実認識を深める姿(比較して考える力の育成)をねらっています。そこで、どの児童にも3つの視点からの事実認識ができ考えを深めさせるために、友達のラベル図と自分のラベル図を比べて違うところ(考えのずれがあるところ)を中心に話し合い、「なぜ、その視点が必要なのか」「その事実(キーワード)は、体験や具体的事実とどう対応しているのか」を説明し、お互いの考えを交流させます。個人カルテの活用で交流を焦点化し、意図的に指名していくことで児童の考えを交流の中に生かしていくようにします。また、共通したラベルがあることから、視点につながりがあることに気付かせます。

7 本時の展開

学習活動と内容	支援 (○)・留意点 (※)
<p>1 前時までの学習を想起し、本時のめあてを確認する。</p> <p>学習問題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>Aさんたちが作っている小石原焼が320年も続いているのは、なぜだろう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>めあて 小石原焼が320年も続いているわけについて、ラベル図をもとに話し合い、自分の考えを見直そう。</p> </div> <p>2 代表児のラベル図をもとに考えの検討をする。</p> <p>(1) 代表児は学習問題とキーワードのつながりやグループ化の理由を発表する。</p> <p>(2) 代表児のラベル図と自分のラベル図を比べて、付け加え、質問、意見を出し話し合う。</p> <p>(3) 考えのずれや共通点について話し合う。</p> <p>3 自分のラベル図の付加・修正を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>学習問題 Aさんたちが作っている小石原焼が320年も続いているのはなぜだろう</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>自然</p> <p>陶土</p> <p>たくさんのまき</p> <p>水</p> <p>上薬の原料</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40%;"> <p>工夫や努力</p> <p>独特の技法</p> <p>とびかんな はけめ</p> <p>くしめ</p> <p>道具</p> <p>とんぼ ろくろ(電動ろくろ)</p> <p>のぼりがま(ガスがま)</p> <p>何年も修行 新しい作品</p> <p>協力</p> <p>民陶むら祭 伝統産業会館</p> <p>道の駅 つちのこ会</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>心</p> <p>伝統の技を子や孫に引きついでいきたい</p> <p>かわいがってもらえる器を作りたい</p> <p>できるだけ軽くてじょうぶな物を作ろう</p> <p>もっとよいものをつくっていこう</p> <p>一生修行を続けていく</p> <p>小石原焼をたくさんの人に知ってもらいたい</p> </div> </div> <p>○ 話し合いの中で自分が理解し、納得した考えを、自分のラベル図に付け加えたり修正したりする。</p>	<p>※ 前時までにモデルとなるラベル図を選んでおき、全児童に配布する。自分のラベル図と比べて付け加えるところや質問・意見のあるところを考えさせておく。</p> <p>※ 代表児のラベル図は、黒板に提示する。それぞれのタイトル・キーワードはラベルにして移動できるようにしておく。</p> <p>○ 学習問題「小石原焼が320年も続いたわけ」とそれぞれのキーワードがどうつながるのか、また、タイトルとのつながり、その関係を分かりやすく説明させる。</p> <p>※ 発言の際に活用できるように、児童が調べるもととなった資料や写真などを掲示しておく。</p> <p>○ 質問や意見を発表する際は、写真や資料を指しながら調べた事実をもとに具体的に説明させる。</p> <p>○ どの子にも3つの視点からの事実認識をさせるために、ラベル図をもとに個人カルテを作成しておく。児童の考えのずれを把握し、交流を焦点化できるようにする。</p> <p>※ ラベルの付加・修正は、それが分かるように赤いマークが付いたカードを使う。</p>
<p>4 本時学習を振り返る。</p> <p>○ 「今日の学習で」を書く。</p> <p>○ 友達の考えを聞いたり、話し合いをして検討した結果、自分のラベル図を付加・修正したところを発表する。</p> <p><予想される児童の変容の例></p> <div style="border: 2px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>わたしは、小石原焼が320年も続いているわけは、小石原の自然を生かして、人々が工夫や努力をしているからだと思っていたけれど、「小石原焼をかわいがって使ってもらいたい、という願いをもって作っているAさんたちの心が大事だということが分かった。」</p> </div> <p>5 次時の学習内容を知る。</p> <p>○ 完成したラベル図をもとにして、お互いの関係がはっきり分かるようなマップをかく。</p>	<p>○ 「今日の学習で」の観点を明確にし、交流して分かったことや自分の考えが変わったところを中心に書かせるようにする。</p>

1 本時 マップを活用した全体交流（13／15）

5 本時の目標

- 小石原焼が320年以上も続いている理由について、自然条件や人々の工夫や努力、心（思いや願い）という点から考えることができる。 **考える力〔比較・関連〕**
- 小石原のAさんたちは、山間の自然条件と伝統の技を生かして焼き物を作ったり、さらに新しい技法を工夫をしたりして、豊かな暮らしの実現に努力し320年間の伝統を守り続けていることを理解できる。 **生きて働く知識**

6 本時指導の考え方

- 本学級の児童は、前時までにラベル図を使って、小石原焼が320年以上も続いたわけについて調べた事を整理し、「小石原の自然」や「人びとの工夫や努力」「思いや願い」等について理解をしている。さらに、ラベル図をもとに調べた事実を体系化し「自然」「工夫や努力」「心」、のつながりについて自分なりの考えとしてマップ②に表現している。
本時はマップ②をもとに、自分の考えを発表し、全体で交流する場面である。
- そこで、本時指導にあたっては、小石原焼が320年以上も続いてきたのはなぜかという学習問題の答えを友だちの考えと比べながら「自然」「工夫や努力」「心」の3つの視点の関係を考えさせていく。そのために、特に次のような手立てをとっていく。

(1) 考えを付加・修正し、高める交流の組織化。

- 実態カルテの活用
児童のマップをもとに、どの視点とどの視点を関係づけているのかを把握し、カルテとして指名の順序や発問として活用していく。
- 関係認識を促す発問
「自然」と「工夫や努力」とのつながりや、「工夫や努力」と「心」とのつながりについては比較的容易に見つける事ができるであろうが、「自然」と「心」のつながりについては、関連付けにくいのではないかと考える。そこで、交流の順序は「自然」と「工夫や努力」とのつながりについて、「工夫や努力」と「心」とのつながりについて、「自然」と「心」のつながりについて」の順で行う。
特に、「自然」と「心」はつながりがあると考えている児童に対して、意図的な指名を行いながら、つながりを見いだしていない児童と意見の交換をさせる。
交流内容としては
①視点どうしがつながる根拠が適切であるか。
②つながりがあると考えたことがらが友達の考えと同じか違うか。
という点が考えられる。
- 児童の考えが見える板書
それぞれの児童がマップを付加・修正できるように代表児のマップを、黒板に再現する。その際には、三つの視点をつなげたり、つないだものを修正したりしやすいように、視点のつながりについては、初めから記入せず、書き加えられるようする。
また、それぞれの児童の考えが一目で分かるように、児童全員の名前が分かるカードを考えごとに黒板に貼っておく。

(2) 考えを比べたり、つなげたりして交流できる場の構成。

- 児童が学習で活用できる学習環境
交流活動において、説明したり質問に答えたりする際に活用できるように、これまで調べてきた小石原の自然、Aさんたちの工夫や努力、Aさんを含む陶工の思いや願い等の資料を、拡大して掲示しておく。
- 学習場面に応じた交流活動の形態
同じ考えをもつ児童をグルーピングし、全体交流を行う中で必要に応じて小グループ内で、話し合うことができるような座席の配置をする。

本時の主張点

本時では、事実を比較したり関連づけていたりして考える力の育成をねらっています。そのために、マップを活用した交流を行います。

自然と工夫や努力とのつながり、工夫や努力と心とのつながり、自然と心のつながりについて、マップをもとに三つの視点をむすんだわけに資料を使いながら説明し合い、互いの考えを高めていきます。そして、3つの視点である「自然」「工夫や努力」「心」がどんな関係になっているのか、それを明らかにする事で学習問題の答えに迫ります。

7 本時の展開

学習活動と内容	支援 (○)・留意点 (※)
<p>1 前時の学習をふり返り、本時のめあてを確認する。</p> <p>学習問題</p> <p>Aさんたちが作っている小石原焼が320年も続いているのは、なぜだろう</p> <p>めあて</p> <p>小石原焼が350年も続いたわけについて、自分の考えと友達の考えを比べながら話し合い、自分の考えを高めよう。</p>	<p>※ それぞれの発表の際に、イメージを豊かにふくらませるために、これまでの学習で活用してきた資料を掲示しふり返ることができるようにする。</p> <p>○ 代表児の発表を視覚的に捉えることができるように代表児のマップ②を黒板に再現する。その際は、黒板で操作ができるように、視点とタイトルのみをあらかじめ用意しておき、説明の中でつながりの線をかかせる。</p>
<p>2 代表児のマップ②をもとに3つの視点のつながりについて交流する。</p> 	<p>○ なぜそう考えたのか分かりやすくするために、掲示した資料を指しながら説明させる。説明の際は自分がつながりがあると考えた理由を明確にさせる。</p> <p>※ つながりがあると考えた根拠を説明する際に、これまでに児童が調べてきた事を振り返り事実を確認できるようにするために、モデルとなるラベル図を用意しておく。</p>
<p>○ 自分のマップ②と比べて共通していると、違っていると話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然と工夫や努力とのつながりについて ・工夫や努力と心とのつながりについて ・自然と心のつながりについて <p>・表現は違うが自分も同じ考えだ。 ・どのような事実からつながると考えたのか？</p>	<p>○ 発表後の交流活動を活発に行わせるために、疑問点や相違点等について順序を決め焦点化しながら話し合わせる。</p> <p>○ 話し合いを焦点化するために、話し合う順序を決め、実態カルテをもとに意図的な指名を行う。</p>
<p>3 それぞれの発表をもとに、マップの付加・修正を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もともになるマップに新たにつながる線を付け加えたり修正をしたりする。(マップ③) 	<p>○ 高まった考えを明確にさせるために、交流後は、付加・修正する時間をとり最終的な自分の考えをマップに表現させる。(マップ③)</p> <p>※ 考えの変容が一目で分かるようにマップ②の修正は赤ペンで行う。</p>
<p>4 最終的な自分の考えについて発表する。</p> <p>まとめ</p> <p>Aさんたちは土、水、木等の自然条件を生かしつつ、独特の技法を大切に受け継ぎながら、小石原焼の発展を願ってさらに新しい作品を作っている。そして小石原の伝統を守り続けるためにこれまでたくさんの人々ががんばってきた。だから小石原焼は今も多くの人々に親しまれ320年も続いている。</p>	<p>○ 高まった考えのよさを確かめさせるためにマップの修正後は、代表の児童数名に自分の考えを発表させる。</p>
<p>5 今日の学習でを書き、次時の予告を聞く。</p> <p>○ 考えが高まったところ、自信が持てたところを文章に書く。</p> <p>変容例</p> <p>私は最初、心と自然はつながらないと思っていましたが、話し合いをして、自然を大切にしたいということが分かりました。</p>	<p>※ 自己評価をさせるために、自己評価の内容と観点を掲示しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えが変わったところとその理由 ・考えに自信がもてたところとその理由